



吉川小だより

5月号

京都府亀岡市立吉川小学校

令和8年4月30日発行

〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210

E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



1年生を育む 子どもたち

1年生が育む 子どもたち

桜の季節はあっという間に過ぎ、山を見ると新緑の木々が私たちの目を楽しませてくれるようになってきました。一年の中でも、たいへん過ごしやすい時期を迎えています。

さて、入学式・始業式からおおよそ3週間が経過して、吉川小の子どもたちは新しい先生にも慣れて、少し緊張しながらも、本来の自分の姿を少しずつ見せるようになってきました。

中でも1年生は、何もかもが初めてのことで戸惑うこともあったと思いますが、今ではひらがなの練習や1から10までの数の勉強などにがんばって取り組んでいます。給食の配膳やそうじも立派にやりきります。この短期間で大きく成長しています。

ところでみなさんは、「小1プロブレム」という言葉をご存じでしょうか？ 現代の1年生は、入学直後に小学校の生活になかなかなじめずに適応できない児童が多いことをそのように表現するそうです。亀岡市では、年長～1年生の時期を「架け橋期」と位置づけ、子どもたちがスムーズに小学校のスタートが切れるように、取組を工夫するなどして、市全体で取り組んでいます。



なぜ、吉川小の1年生は生き生きとがんばれるのか。それは上級生、特に6年生の子どもたちのおかげなのです。

6年生は、朝登校したら1年生の教室に行きます。1年生が朝の準備をするのを手伝うためです。給食の時も配膳を手伝います。そうじもいっしょに取り組めます。

やさしく教えてくれる6年生のサポートのもと、1年生は安心してやり方を覚え、自信

をつけていきます。これが成長につながった理由です。

一方、6年生を見ていると、これまたぐんと成長しているのです。最初はぎこちなかった教え方も、徐々に慣れてきて、少しずつ1年生が自分の力でできるように見守る時間を増やしていきます。何事も手伝いすぎるのはよくありません。そして、1年生は「ありがとうございました！」と6年生にお礼を言います。その言葉に、笑顔で応える6年生。見ていてすがすがしい気持ちになります。6年生も、1年生のおかげで成長しているのです。

今日は、「1年生を迎える会」が行われました。6年生のあたたかい気持ちが様々な場面で見られました。6年生のみんな、これからも1年生のこと、よろしくね！

校長 谷口 浩之